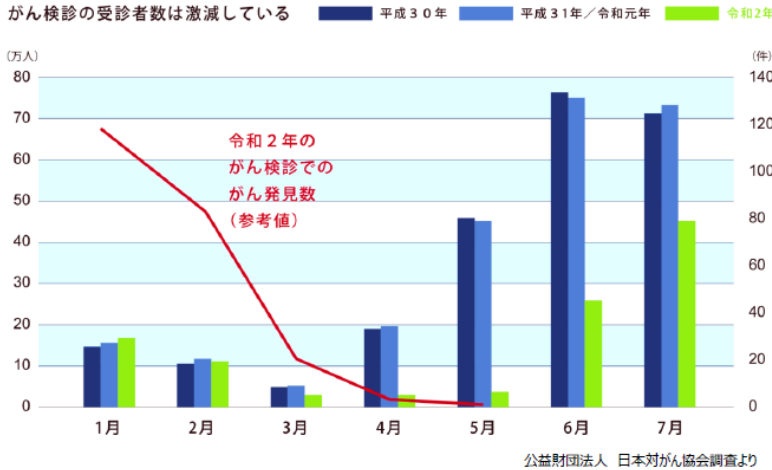


コロナ禍で増すがん検診の必要性とがん保険の有効性についてJR九州労組での利用・給付実績なども踏まえて特集してみました。

がん検診受診者数の推移



コロナ禍でがん検診を受ける人が減っています。



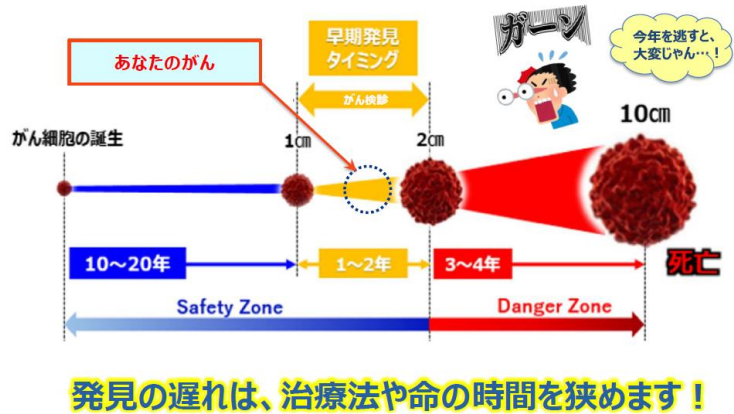
がん罹患者を見過ごし、翌年以降の発見数が増える見込みであることから、治療の遅れにも繋がり、がん死亡者数の増加が懸念されています。

がんの早期発見が命を救う

がんが発見可能な1cm大となるまでには長い年月がかかります。しかし、それからわずか数年で死に至る大きさまで成長します。



早期発見は2cm大までとされています。



発見の遅れは、治療法や命の時間を狭めます!

10年相対生存率※

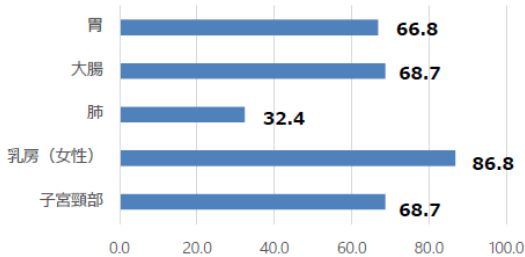
対象期間中にがんと診断された方の10年後の生存率

57.2%
(2003~2006)

▶ 58.3%
今回: 2004~2007

※相対生存率: がん以外の死因による死亡などの影響を取り除いたもの

がん部位別10年生存率



国が奨める5大がん検診の10年生存率

進行度(ステージ)	I	II	III	IV
胃	90.8	58.6	37.0	5.9
大腸	94.4	83.3	73.4	13.3
肺	67.1	31.3	12.3	2.2
乳房(女性)	98.0	88.4	63.8	19.2
子宮頸部	89.0	68.6	47.9	20.2

(2020年11月 国立がん研究センター)

がん全体の10年生存率は改善が進み、「がんは不治の病」という印象は払拭されつつありますが、進行すると命の危険にさらされます。

JR九州労組（団体）におけるがん保険の給付金・保険金の支払い状況など

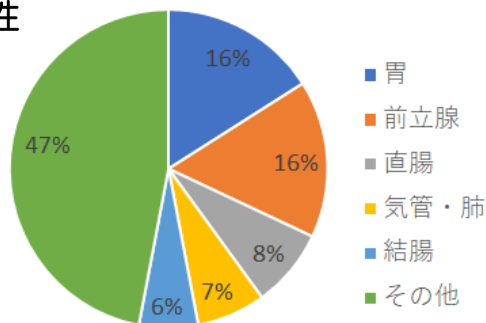
○これまでにアフラックが支払ったがん保険の給付金・保険金の件数と金額

件数 356件、金額 7億1,330万円

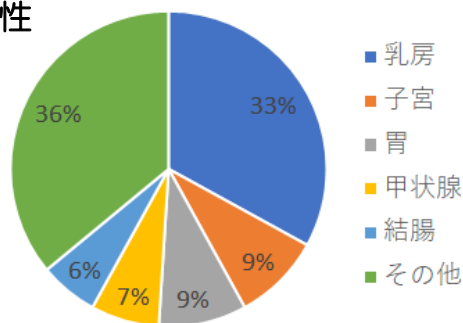
通算支払金額 1,000万円以上	…	件数 25件
通算支払金額 500万円以上	…	件数 2件

○JR九州労組 部位別 入院給付金 支払い状況

男性

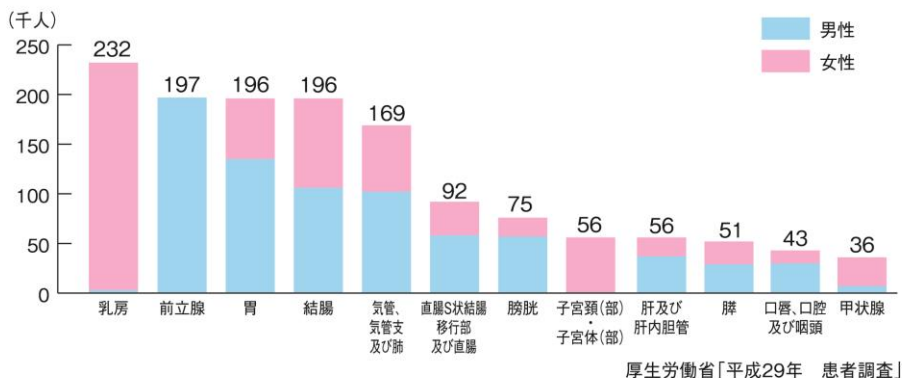


女性



○全国版 部位別 がん患者数

■がんの部位別に見た総患者数



全国的に見ても、**JR九州労組**同様、**乳房・前立腺・胃**の患者数が多いようです。



○全国のがん保険利用者からの声



ありがとう がん保険

お客様から寄せられた、たくさんのお手紙の一部をご紹介します。

アフラック発行「ありがとうがん保険」より

～経済面の支えにありがとう～

入院・抗がん剤療法・通院と長期間のつらい日々、費用も多額でしたが、貴社の保険に加入していたおかげで安心して治療に専念できました。

(大阪府 男性)

～迅速な支払いにありがとう～

妻の手術や抗がん剤投与の入院に際して、その都度、大変スピーディーな処理でお支払いいただき、感心するとともに心よりお礼申し上げます。

(埼玉県 男性)

～契約してよかった、ありがとう～

がんと言われたときは頭が真っ白になりましたが、給付金をお支払いいただき、頑張ろうという気持ちになれます。アフラックの保険に入っていたことを心から感謝いたしております。

(北海道 女性)

JR九州労組でもがん保険利用者の声は届いています。

組合員の皆さまにお役立て頂ければ幸いです。



第二次取組期間中には是非、**がん保険**の加入をご検討ください。すでにご加入済みの方も最新治療に対応可能かなど、加入内容をご確認ください。